

# 検診における尿異常について

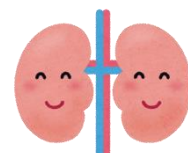


世界に先駆け日本が始めたすぐれた検診システム！

3歳児検尿や学校検尿は、日本が始めた検診システムです。通院や治療を必要とする腎臓の病気を早期に発見し、将来腎不全になる子供を減らすために行われています。実際に日本の小児末期腎不全の患者数の割合は世界で一番少なく、学校検尿による効果と考えられています。

## 腎臓と蛋白尿・血尿

腎臓は多くの血液から尿を作る臓器です。血液から尿を濾過する部分は糸球体と呼ばれ、フィルターのような役目します。通常は赤血球や蛋白はここでトラップされ尿中に漏れないのですが、糸球体に炎症を起こすとフィルターを通過して尿に漏れ出てくるため、尿検査で蛋白尿や血尿がみられます



## 検尿で異常＝腎臓の病気？

検尿で異常があった場合に慢性腎疾患である確率は、血尿だけの場合は約5%、蛋白尿だけの場合は約10%、血尿＋蛋白尿両方の場合は約70%と報告されています。つまり、血尿だけの場合は治療が必要な病気の可能性は低く、蛋白尿がある場合や、血尿・蛋白尿が共にみられるときにはより慢性腎疾患の可能性が高くなります。検尿で異常を指摘されても、多くは問題ないものですが、まれに腎機能が悪化する病気が見つかることもあります。検尿で受診を薦められた場合には、放置せず受診しましょう。

医療機関での精密検査では、診察、問診、尿検査、採血、超音波検査、身長・体重・血圧測定などを行います。これらの結果によって、必要に応じて当院での経過観察もしくは小児腎臓専門施設への紹介を致します。